

文化審議会国語分科会漢字小委員会（第10回）資料

平成26年7月25日（金）

学校教育における漢字指導の現状と課題
—字体に関わって—

奈良教育大学 棚橋尚子

1. 「正しさ」を求める漢字教育

【事例1】棚橋自身の中学校時代の経験

中学校3年生の定期テストで返却された国語テストが98点だった。間違っていたのは漢字問題1問である。「接続」という語句の「接」にバツがつけてあった。(てへんははねてあるし、立の部分の長短もおかしくない。先生の採点間違いなのでは?)「先生、この字はどこか間違っていますか。」と問う私に当時の国語教師は…。

【事例2】棚橋に送られてきたメール文面 → 【事例3】へ

お久しぶりです。学生の頃、研究室でお世話になった〇〇〇〇です。忘れたかなあ。現在、A市のB小学校に勤めています。3年の担任に家庭から漢字指導に関する質問があり、相談されたのですが、うまく答えられなかったのが、専門家のご意見を伺いたく、突然メールしました。字体の問題ですが、「返」の「反」の部分の4画目をとめるかはらうかの問題です。まあ、どちらでもいいのですが。調べたところ、教科書体だとはらってあり、楷書体だととめてあるのですが、今回のケースは、学校の授業では教科書にしたがって「とめる」指導をしたのに、ある児童が塾で問題集を使用した際に「はらう」で指導されたわけです。その母親から質問が来しました。母親に対して、また、3年生の児童に対してどんな説明をすれば納得するかということです。よければお知恵を拝借したく存じます。

【事例4】どちらが正しいのかを聞きたがる大学生

表1 どちらで書くか(人)

A		B	
比	90	比	5
改	70	改	25

大学の授業で、書字における教科書体と明朝体の影響について簡単な調査をした。教科書体は小学校で、明朝体は中学校以上で扱う書体である。

挙手で結果を確認した後、学生たちは私に…。

【事例5】厳しい人ほど尊敬される？

採点してみましよう。

次の平仮名を漢字に直しなさい。「あ」は「あ」です。

① あらため	② いつさい	③ おくやま	④ ほけんし	⑤ かん	⑥ ことば	⑦ がっきゅうかい	⑧ ひかくする	⑨ かぜのたより	⑩ こが
改める	一切	奥山	保健室	一年間	言葉	学級会	比較する	風の便り	戸外
⑪ ひゆ	⑫ かく	⑬ あさける	⑭ えさ	⑮ おぼれる	⑯ おんなのこと	⑰ きのした	⑱ そら	⑲ りくじょう	⑳ さけのむ
比喩	嗅ぐ	嘲ける	餌	溺れる	女の子	木の下	空	陸上	酒を飲む

得点

月日

学年

氏名

東京ビデオフェスティバル 2007 年度大賞作品「漢字テストのふしぎ」（長野県梓川高等学校）に触発され、学部の授業で上のテストを採点させてみた。学生の採点幅は6点から16点。グループで話し合うとさらに辛い採点となる。¹

これらの事例から推測できることは、書字における細かな部分が、学校教育（特に小学校教育）において、かなり重要視されていることである。

2. 学習指導要領に書かれた漢字学習の階梯

2.1 習得漢字数の推移

表2 学習指導要領に示された学年段階の習得漢字数

校種	学年等	学年別漢字配当表の漢字		常用漢字表の漢字	
		読み	書き	読み	書き
小学校	1	80		—	—
	2	160	80	—	—

¹ 棚橋尚子「コーパスに基づく漢字教育の改革」田中牧郎ほか『言語生活に役立つ、コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』（科研報告書）（2011）より

	3	200	240	—	—
	4	200	440	—	—
	5	185	640	—	—
	6	181	925	—	—
中学校	1	すべて	900 字程度	300 字～400 字	—
	2	—	すべて	1 年+350 字程度か ら 450 字	—
	3	—	すべて	大体	—
高等学校	国語総合	—	—	すべて	主な常用漢字

2.2 「解説」より—〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の取り扱い

…漢字の指導の際には、学習要領の「学年別漢字配当表」に示された漢字の字体を標準として指導することを示している。しかし、この「標準」とは、字体に対する一つの手掛かりを示すものであり、これ以外を誤りとするものではない。児童の書く文字を評価する場合には、「常用漢字表」（昭和 56 年内閣告示）の「前書き」にある活字のデザイン上の差異、活字と筆写の楷書との関係なども考慮することが望ましい。

（平成 20 年『小学校学習指導要領解説国語編』）

3. 学習者の字体意識

3.1 児童，生徒における「手書き文字字形」と「印刷文字字形」の認識について

表 1 どちらで書くか(人)

A		B	
比	90	比	5
改	70	改	25

（再掲）

調査したわけではないが、児童生徒は「手書き文字字形」（または「教科書体」と「印刷文字字形」について、格段の区別意識はないのではないかと考える。

とりあえず「活字は正しい字体」といった認識なのではいか。小学校において教科書体で学んだ字も、中学以降の明朝体の影響で書字細部に変化がみられる。

3.2 変わる中学校教科書の字体

中学校の国語教科書の字体については、教科書会社によって手書きに近い字体に改める会社が見られた。また、学習指導要領解説の「指導に当たっては、字体、字形、音訓、意味や用法、などの知識を得させ（第 1 学年）」といった記述を受けて、字体について取り上げの中で「手書き体（書き文字）」についても言及する会社が見られた。

【資料】常用漢字表の改定に伴う中学校学習指導要領の一部改正等及び小学校、中学校、高等学校等における漢字の指導について（通知）（平成 22 年 11 月 30 日）

2 学校教育での筆写（手書き字形）の取扱いについて

学年別漢字配当表に示された漢字の筆写の指導については、これまでどおり学年別漢字配当表の字体を標準として指導すること。

また、改定後の常用漢字表の「(付) 字体についての解説」（別添参考資料 1）（以下「(付) 字体についての解説」という。）の第 2 の 3 にあるような「筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが、字体の違いに及ぶもの」についての筆写の楷書の指導については、次のとおりとする。

ア) 中学校における漢字の「読み」の指導過程で筆写する場面等においては、印刷文字字形に倣って指導することを標準とすること。なお、それぞれの漢字の特性や生徒の実態に応じて、字体の違いに及ぶ指導を行ってもよいこと。

イ) 高等学校においては、中学校までの指導を踏まえて、各学校が生徒や教材等の実態に応じて適切に指導すること。

なお、改定後の常用漢字表においても、「(付) 字体についての解説」の「第 1 明朝体のデザインについて」や「第 2 明朝体と筆写の楷書との関係について」の記載があることを踏まえ、児童生徒が書いた漢字の評価については、指導した字形以外の字形であっても、指導の場面や状況を踏まえつつ、柔軟に評価すること。

【東京書籍中学校国語科担当者の話】—明朝体フォントの変更について—

中学校の国語教科書については、平成 24 年度版より、会社独自の「教科書体を意識した明朝体」を使用している。この変更は、文科省の通知の前から予定していたことで、完全に明朝体になる高等学校との橋渡しという意味合いから、書くときの形を意識して変えたものである。小学校時代教科書体で学んできた子どもたちが、中学校でいきなり明朝体を目にすると混乱することが考えられ、それを回避する目的で独自のフォントを用意した。端的なものは、「ごんべん」「しんにゅう」などであり、手書きに近い形になっている。

教科書改訂の平成 24 年度には「違和感があるが…」などの問い合わせも多かったが、意図を説明すると納得いただけた。なお、教科書で使っている字体は、本社独自の教科書体を意識した明朝体とゴシック体、新出漢字を提示する部分の教科書体である。

※ 従来、字体について学校教育上学習者が意識したのは中学校美術からではないか？

4. なぜ「常用漢字前書き（字体）」は意識されなかったか

- ・ 存在そのものが周知されていない。
- ・ 学習習慣の基礎を作る小学校時には「丁寧に図形を写す」ような活動が重要と考える教師が少なくない。

- ・ 教師自身が潜在意識の中で漢字を実は軽んじており，経験則から抜け出すことができないまま指導を続けている。

5. 漢字学習指導で生じている問題

5.1 小学校教師のアンケートに見る漢字指導の実態²

【調査期日】 平成10年6月

【調査対象】 日本国語教育学会名簿等から無作為に抽出した全国の小学校教師500名
うち有効回答数252

【質問事項】 性別，年代，昨年度担当学年

漢字ドリル使用の有無*

読解指導の際の漢字学習設定位置（単元のはじめ，なか，おわり）*

漢字学習の形態（全漢字指導，一部取り上げ，自主学習に任せる）

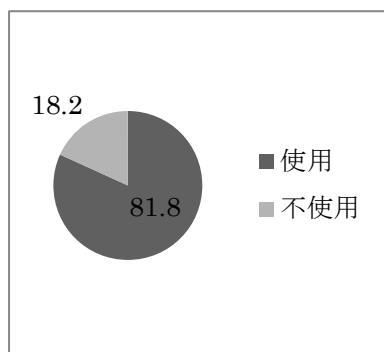
繰り返し練習の実施

漢字小テストの実施*

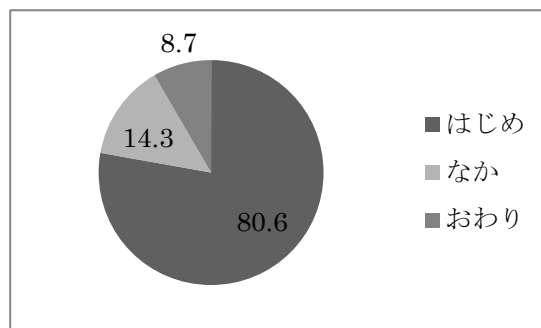
テストの際の細部（とめ，はね，はらいなど）への目配り*

小学校卒業時の書きの範囲（4年，5年，6年）

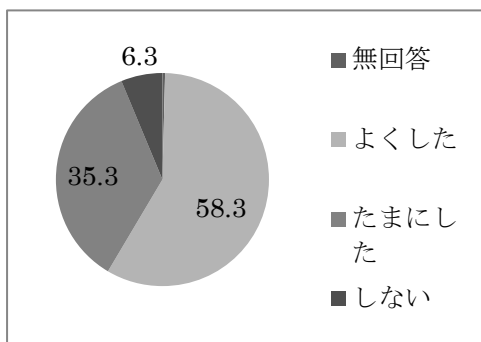
漢字ドリルの使用



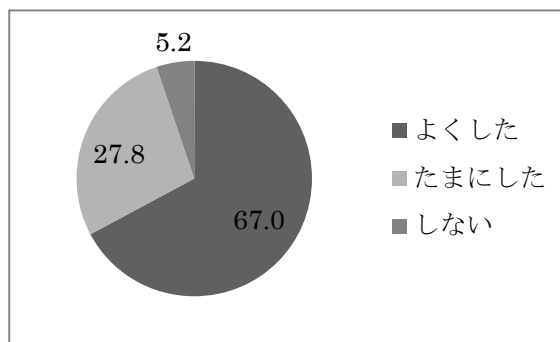
単元における漢字学習の位置（複数回答含む）



漢字小テストの実施



テストの際の細部への目配り



² 棚橋尚子「主体的な言葉の学び手の育成に向けて一語彙指導としての漢字教育を考える」日本国語教育学会『月刊国語教育研究』329（1999）より

5.2 評価において生じている問題

- ・特に漢字に苦手意識のある児童の漢字学習への意欲が減退する。
- ・指導者によって評価の基準が異なる。
- ・学習者の側が、漢字学習は字形細部を覚える学習だという意識にとらわれ、漢字習得が語彙の拡大に発展しない。したがって漢字を「使える」ようになりにくい。

5.3 高等学校で何が行われているか

- ・学校によっては、テキストを用意し「小学校からの漢字書き取りの復習」を行っている。
- ・奈良県立A高等学校における「山月記」等の実践では、総ルビのテキストを使うことによって、生徒の読解が深まったことが報告されている。

→小野瀬雅人の指摘³

本章では、ルビの有無が文章読解にどのような影響を及ぼすかを、小学校5年生児童を対象に検討した。その結果、文章から直接読み取れる浅い処理で済むとタイプの問題ではすべて、ルビなし群の方が正答者が多かったのだが、全体の読み取りに加えて、その深部を想像したり見通したりすることが必要になる質問では、総ルビ文クラスの誤答者の方が少ないという結果を得た。これは、浅い読みではルビは若干妨害的に機能するが、深い読みを必要とする場合には有利に機能すると考えられた。

さらに、個々の児童の漢字読字力との関連で見ると、漢字読字力が比較的低い児童では、総ルビ文が必ずしも読みやすいとは回答していないにもかかわらず、より深い理解を要する問題では、比較的高い正答率を得ていることが明らかになった。

以上から、より深い理解のためには、ルビは読みにくい点があるにもかかわらず、有効な手段となっているものと考えられた。

5.4 指導と評価の一体化に向けて

- ・「評価はゆるやかに」は多くの著作の「合言葉」ではあるが…
- ・棚橋が各所で提案しているのが、採点コースを分ける評価方法であるが、先生方にはあまり好まれない。

6. 常用漢字表の「字体についての解説」の考え方が周知されることの意義

- ・漢字教育の本質が語彙教育であることへの回帰が期待できる。
- ※周知するためには、教員養成系学部において学習の「必修化」が必要。
- 早稲田大学の事例

³ 小野瀬雅人『ふりがなの教育心理学的研究』野間教育研究所(1999)